

平成30年度 学 校 評 価 報 告

草加市立谷塚小学校
(平成31年2月8日作成)

1 学校教育目標	
徳育……やさしく (思いやりのある子) 体育……つよく (たくましく粘り強い子) 知育……かしこく (進んで学ぶ子)	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
○全職員の「熱意・誠意・創意」を結集させ明るく 元氣な学校づくりの推進 ・知・徳・体のバランスのとれた児童の育成 ・生徒指導、教育相談活動の充実 ・幼保小中一貫教育の推進 ○子どもたち一人ひとりを大切にした教育の推進 ・学力向上、体力向上の取組の充実 ・自他の命を大切にする指導 ・生徒指導の充実、いじめの根絶 ・家庭地域との連携「8が付く日は谷塚の日」	成果 ○研修の成果を活かした日々の授業の着実な実践 ○学力の課題を明確にした基礎・基本の定着 ○一人ひとりの児童を大切にする教育の推進 ○地域・保護者に信頼される教育の推進 ○あいさつ運動による明るく元氣な学校 課題 ●校内研修体制の更なる充実 ●校内研究実践の検証を生かした学力の向上 ●幼保小中一貫教育の推進に係る研修

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○常に学校経営方針の周知徹底を図り、教職員の参画意識を高めたことで、目指す学校づくりが組織一体となり、円滑に推進できた。 ○各校務分掌主任の適材配置のもとで、機能的・能率的に運営され、学校経営目標が達成できた。 ○各教科等への予算配分が適切に執行できた。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○谷塚中学校区一貫教育の研究テーマに関わる研修と実践により、授業改善が図られ、着実な成果を上げた。 ●研修の共通理解を図り、成果と課題を明確にし、発表に向けた各研修部の取組みの活性化を図ること。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○学校保健安全法に基づいた管理マニュアルの実践により、充実した健康管理が行われた。 ○地震や火災等の想定やJアラート対応の避難訓練、また複合施設での合同避難訓練を実施するなど、様々な想定で避難訓練が行われた。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○個人情報の管理体制が校内管理規程に基づいて周知徹底が図られ、適切に行われた。 ○谷塚文化センター及び児童クラブ三者連絡会のもとに、組織連携が円滑に行われた。 ○個人情報や学年会計管理の周知徹底及び施設設備等の点検が万全を期して適切に行われた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○保護者・地域に開かれた学校公開やホームページの更新及び学校便り等各種通信、メール配信等で必要な情報の早期発信が徹底できた。 ○地域行事等への積極的参加や学校評議員からの貴重な意見を目指す教育活動に活かし実践できた。 ●学校応援団・PTAとの継続した連携の充実。 ●市民運営避難所訓練の地域協力体制の確立。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の実現に向けた取組 ・教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○谷塚中学校区幼保小中合同研修会及び研究協議会での成果と幼稚園・保育園との交流授業を通して、一貫教育に関わる基盤体制が整い充実できた。 ●小中一貫教育の推進に係る取組の更なる充実を図る。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅱ 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	- 教育課程の編成、実施 - 教育計画の作成 - 教育活動の評価 - 目標、方針の周知 - 授業時数の配当、確保	A	○各教科領域等の教育計画のPDCAサイクル及び移行措置期間を見据えた日課表及び計画立案の作成。 ●次期学習指導要領を見据えた年間行事計画の見直しの徹底を図ること。
	②教科指導	- 指導計画の立案 - わかる授業づくり - 指導方法の工夫と改善 - 評価、評定の工夫 - 外部人材の活用	A	○算数科の少人数指導による学力向上及び低学年学習補助員の配置により、基礎学力の向上と学習規範の充実が図られた。ICTの活用による児童の意欲向上。 ○校内研究推進の充実による指導力の向上の充実。 ●主体的・対話的で深い学びが展開される授業づくり。
	③道徳教育	- 全体計画の作成 - 各教科との関連 - 道徳実践力の育成 - 家庭、地域社会との連携 - いのちの教育の推進	B	○特別な教科道徳の研修や資料の提供及び道徳推進者の公開授業を通して、道徳教育の充実が図られた。 ○学校公開日に全学級での道徳授業の積極的公開。 ●道徳の授業のねらいを明確化させ、児童の道徳実践力をさらに育成する授業の改善を図ること。
	④外国語活動	- 指導計画の立案 - 指導方法の工夫と改善 - 評価、評定の工夫 - 各教科、道徳教育との関連 - 中学校との連携	B	○ALTを活用し、外国語におけるコミュニケーション能力を育むことができた。 ●ALTとの打合せ時間の確保とコミュニケーションを図り授業計画の充実を図ること。
	⑤特別活動	- 指導計画の立案 - 学級活動、学級経営 - 学校行事 - 児童会活動	A	○8の付く日「谷塚の日あいさつ運動」やいじめ根絶運動の谷塚中学校区と地域青少年育成委員会との連携。 ●児童会活動年間集会計画の見直しと活動内容の工夫。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	- 指導計画の立案 - 指導内容の充実 - 指導方法の工夫と改善 - 評価の工夫	B	○指導計画に基づき、外部人材を活用した福祉学習などゲストティーチャーの協力や地域の施設等の活用で、学習内容が充実した。 ●児童の思いや願いを重視した学習過程の整備。
	⑦生徒指導	- 組織的な生徒指導 - 問題行動への対処 - 教育相談、児童理解 - 基本的生活習慣の定着 - 保護者、地域、諸機関との連携	A	○生徒指導委員会で生活目標や通年目標の取組みの評価を行い児童への意欲化を図った。 ○問題行動に対する早期発見早期解決の組織体制を整え保護者の信頼を得ながら解決できた。 ○市教委や関係機関等との指導・連携体制を図り行えた。
	⑧キャリア教育	- 計画の立案 - 指導内容の充実 - 中学校との連携 - 啓発的経験の充実 - 家庭、地域との連携強化	B	○乗り入れ授業や中学校進学へ向けた体験授業を生かしたキャリア教育の充実が図られた。 ○学校選択制で保護者との連携が図られた。 ●キャリア教育の具体的な活動計画と評価の改善を図ること。
	⑨特別支援教育	- 個別の指導計画、支援計画 - 指導方法の工夫と改善 - 通常学級との交流 - 諸機関との連携 - 校内支援体制の整備	B	○特別支援教育コーディネーターを中心に校内委員会で児童一人一人のニーズを把握し、諸機関と連携しながら指導、支援に努めてきた。 ●通級学級との連携を深めること。
	⑩学校図書館教育	- 指導計画、支援計画の作成 - 図書館補助員の活用 - 諸機関との連携 - 図書館の整備 - 図書館利用の工夫	A	○学校司書との連絡体制や学校・地域図書館ボランティアによる児童との交流や環境整備が充実した。 ○低学年の貸出を行い、読書好きな児童が増えた。 ●中央図書館との連携推進に努める。
	⑪情報教育	- 教育計画の作成 - 校内研修の充実 - ICT機器の積極的な活用 - 情報モラル教育の推進	A	○ICT機器の整備とICT支援員の効果的な活用における授業改善と児童の学習意欲の向上。 ●プログラミング学習の導入への計画立案。
	⑫人権教育	- 全体計画の策定 - 各教科との関連 - 人権感覚の育成 - 校内研修の充実	B	○人権教育全体計画及び各学年年間指導計画の見直し。 ○人権作文及び人権標語の取組みに関わる人権感覚の育成の充実。 ●校内人権教育の研修の見直し及び地域への啓発。

領域	評価項目	評価の観点	評	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①一貫教育推進と学力向上	- 基礎学力の定着 - 言語活動の充実 - 自ら学び豊かに表現する力を育てる授業 - 主体的に運動する授業の実践	A	○各研修部における取組みの充実。「やつカード」「家庭学習週間の取組みカード」の実施と検証。 ○算数・国語タイム、読み聞かせの時間の確保。標語や俳句づくり等の取組み等の継続実践が基礎学力に確実に繋がった。 ●家庭学習への啓発と協力体制の更なる定着を図る。
	②豊かな心の育成	- あいさつ運動の推進 - いじめゼロプロジェクト - 道徳教育の充実 - 体験活動の充実	A	○「谷塚小あいさつ運動」で連携する谷塚中学校生徒会や地域青少年育成推進委員会の参加のもと、児童の意識向上が図られた。 ○代表委員会が主体となる運動のもと、いじめ根絶の意識が全校児童へ図られている。
	③複合施設の有効活用と地域力を生かした教育活動	- 谷塚文化センターとの連携の充実 - 地域との連携を深める取組の充実	B	○学校行事関連と谷塚文化センター施設利用の調節を図りながら共催事業を円滑に実施することができた。 ●学校応援団の組織体制を拡大し、地域の力を生かした教育活動を推進すること。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・地域に根ざす特色ある学校づくりの具現化を図り、全教職員でチーム谷塚小の団結力を生かし、地域協働体制のもと積極的に教育活動に取り組んだことにより、生徒指導の充実と学力の向上に繋がった。
- ・学校目標の重要課題である『あいさつの運動』の取り組みは、谷塚中学校生徒会及び地域青少年育成推進委員の方との連携で、明るく元気なあいさつができる児童が増え、学校全体に活気が感じられるようになったとの評価を得ているところであるが、引き続き、心豊かな教育の推進を図っていく。
- ・学校課題研修として谷塚中学校区一貫教育推進に関わる研究に取り組み、合同研修会を重ね研究体制を整えることができた。谷塚中学校15歳の目指す児童像の達成のための授業改善に努めるとともに、一人ひとりのよさを認め、自己肯定感を育成する教育の充実に向けて、教師の指導力の向上や指導体制の工夫改善をより一層図る必要がある。
- ・学校応援団・複合施設等の地域力をあらゆる教育活動に活かした組織体制づくりが不可欠である。
- ・有識者及び保護者学校評価の結果を真摯に受け止め、改善すべき点をPDCAサイクルで行い、信頼される教育実践にむけて、子どもたち一人ひとりを大切に笑顔かがやく元気な学校づくりを目指し、全教職員が一丸となった学校教育の実現を目指す。

6 次年度の改善策

- ・校内研修体制づくりの共通理解を図り、日々の授業改善の工夫と活性化を図り、成果と課題の明確にして確実な学力の成果を目指す。
- ・新学習指導要領移行期間における教育計画立案での具体的な学力向上に関わる各教科・領域ごとの年間指導計画の見直しと作成。
- ・教育相談体制の事例研修等の定期的な実施及び関係機関との連携、教員のカウンセリング力の向上を図り、校内就学指導委員会の充実を図る。
- ・各教科における谷塚スタンダードの取組の周知徹底と授業規律の更なる充実を図ること。
- ・次年度発表に向けた谷塚中学校区幼保小中一貫教育を（接続カリキュラム、小中乗り入れ授業の充実、児童生徒同士の交流活動の充実、職員間の合同研修会の実施等）一層推進させる。
- ・学校経営方針の実現に向けて、教職員の具体的目標の指標を自己評価シートに記載し、教科指導・生徒指導・校務分掌等にて目標達成及び貢献できるように組織の一員としての更なる達成を目指し学校教育の活性化に繋げる。